

文献

水出 靖, 栗原 勝美, 岡田 富広, 緒方 伸彦, 柏木 慎太郎, 柴田 健一, 高澤 史, 西村 みゆき, 古川 直樹, 和田 恒彦, 長谷部 光二, 近藤 宏, 藤井 亮輔. ランダム化比較試験による膝痛患者の臨床症状に対するマッサージ療法の有効性に関する探索的検討 複数回介入による効果. *理療教育研究*. 2019; 41(1): 7-16. 医中誌 web ID 2019259996

1. 目的

慢性膝痛に対するマッサージ療法の有効性を検討する。

2. 研究デザイン

ランダム化比較試験

3. セッティング

施術所 3 施設、通所施設 1 施設の計 4 施設

4. 参加者

61~89 歳の 27 例 27 膝

5. 介入

Arm 1: マッサージ群 (15 例 15 膝、平均 71.7 歳、膝関節周囲の軟部組織に対してオイルを用いたマッサージ療法を実施)

Arm 2: コントロール群 (12 例 12 膝、平均 75.9 歳、安静臥床)、いずれも週 1 回 15 分間、計 4 回。

6. 主なアウトカム評価項目

各介入前後の JKOM、SF-36、疼痛の VAS、膝関節屈曲・伸展角度、疼痛出現しゃがみ込み角度、Timed Up and Go (TUG) test

7. 主な結果

すべてのアウトカムについて、両群間に統計学的に有意差は認められなかった。マッサージ群ではベースラインに対して JKOM、膝関節屈曲角度、TUG test の有意な改善 (各 $p < 0.05$)、3・4 回目の介入前後で疼痛出現しゃがみ込み角度の有意な改善 (各 $p < 0.05$) を認めた。

8. 結論

アウトカムの各項目において両群間に有意な差を認めなかったことから、継続したマッサージ療法の明らかな有効性は見出せなかった。今後さらに介入の時間、頻度、期間等を検討する必要がある。

9. 論文中の安全性評価

マッサージ群で介入後の膝の痛み 1 例、膝屈曲角度測定時の下肢筋の痙攣 1 例、コントロール群で体位変換時のふらつき 1 例を認めた。いずれも一過性の軽度な現象であった。

10. Abstractor のコメント

慢性的な膝関節痛へのマッサージ療法の効果を検討した研究である。標準化されたマッサージ術式を用いた 4 週間の多施設連携 RCT を実施しており、マッサージ療法の効果の検討に有用な知見を提示する報告である。

本研究において、マッサージ療法の有効性は示されていない。一方で、マッサージ群において、限定的な改善傾向が示されており、今後、マッサージ療法による介入の時間、頻度、期間等の検討が必要な可能性がある。

なお、本研究では、4 週間の介入を行っているが、多くのアウトカムの最終的な判定は 4 回目の介入前に行っており、真に 4 回の介入効果を検討できていない。また、膝関節痛の原因疾患のコントロールは行われていない。今後、介入条件を検討した、さらなる研究が期待される。

11. Abstractor and date

福島正也 2021. 11. 25